

# せっかち 園長の ひとりごと

2015、5、29

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

さてさっそくですが、今回はまず、うれしい話から。

4月号で私は、上のお子さんの卒園を機に、下のお子さんをお家の近くの園に転園させる予定だった親御さんが、兄弟2人の会話を聞いて、子どもの世界を大切にしたいという思いから、すでに入園料を収めてしまったけれど その転園をやめたというお話を紹介しました。そしてそのエピソードに、次のような「ひとりごと」をつぶやきました。

ケースバイケースなので、軽はずみに、すべてのご家庭が このお母さんのような判断をするべき、と言う気はありません。ですが、私は、よんどころない大人の都合・・・これはこれで、社会情勢が厳しい今の世の中、なかなか大変です・・・を、子どもが変えた、ということに、ただただ感動します。

そして、今、世の中全体が子どもの世界に無関心か、逆に、子どもの世界を過剰にコントロールしてしまっているかの、どちらかであるような気がしています。 **私が子どもに関わる仕事をしていて願うのは、子どもの世界に寄り添いつつ、子どもが大人の知らない自分の世界を作りつつある姿を応援するような大人の存在。**

・・・ここで今回紹介した「かっぱ」のエピソードも、親からすると大人の知らない世界の話です。でもきっと、そこでは、「へー、お母さんはかっぱに会ったことないけど、すごいねー！」というような関わりがあったのではないのでしょうか？ そのような、子ども自身の世界を受け止めて応援してくれる大人の存在が、とても大切だと思うのです。



そして今回紹介するのは、もり組・年長組の遠足（5月28日・群馬自然史博物館）にまつわるお話です。

・・・いろいろな事情から、スケジュール的に、そのお子さんは遠足に行けないことになっていました。園としては、年長組の遠足の目的を説明し、何とか遠足に参加できないか、話し合いをさせていただきました。

☆親は行かず、子どもと職員だけで行く**年長組の遠足の目的**→ それは、クラスの友だち同士で、楽しさを共有し、その経験が今後の保育や園生活に生かせる、ということ。小さい組の遠足の目的である「親子・家族のふれあい」とは違います。

続く↓

- 親御さんと いろいろ話し合いましたが、様々な事情から、やはり どうしても、そのお子さんは遠足に行けない状況でした。そして、私たちもその話を聞いて、親御さんの考えや事情に納得し、では、そのお子さんが遠足に行けないことを、クラスで友だちに、どう話題にするか、を考えることにしました。
- ところが その後、親御さんから電話があり、最終的な結論として、我が子を遠足に行かせることにした、ということでした。私はまた、その理由を聞いて感動してしまいました。
- それは、…そのお子さんがクラスで、「わたしは、遠足に行けないかもしれない。」と言ったら、友だちから「〇〇ちゃんが行かないなら、わたしも行かない。」と言われてしまった…なので、そのお子さんは「□□ちゃんがそう言うから、わたしはやっぱり、遠足に行きたい。」と親御さんに言ったそうです。
- そして親御さんは、本当に難しい対応だったと推測しますが、我が子が、幼いながらも、自分なりの人間関係や社会を築いていることを尊重し、結論として そのような判断をされたのだと思います。

ここにも、**子どもの世界に寄り添いつつ、子どもが大人の知らない自分の世界を作りつつある姿を応援する大人（親）**がいます。子どもに関わる仕事をしている私としては、本当に、うれしい限りです。**このような大人たち（親たち）の子どもへの関わりを、日本中に広めていきたい、と心から願います。**

群馬自然史博物館

大きいっ!!! 「ティラノサウルス等の恐竜の化石コーナー」



「哺乳類の化石コーナー」…興味津々。



みんなでお弁当！おいしかったね。



## さて、今、学校の鉛筆が・・・

皆さんは、鉛筆といったら HB ですか？ 2B ですか？・・・これにはある年齢を境に、違うイメージを持つようで、私などは、もう完全に鉛筆といったら HB です。小学校のころから、勉強のときは HB を使うよう指導されてきました。一方、図工の時などは、2B を使うように指示された記憶があります。

(ある年齢より若い方は、鉛筆と言うと 2B というイメージを持っているそうです。)

さて、テレビのネタで恐縮ですが、最近の文房具売り場には、HB の鉛筆が無いそうですね。・・・それはなぜかという、小学校の先生が「鉛筆は、B か 2B を用意してください・・・」と言うからだそうです。

ではなぜ、小学校の先生が「B か 2B を・・・」と言うのでしょうか？・・・もうおわかりですか？・・・それは、ある時期から、子どもの筆圧（鉛筆などで文字などを書く力）が弱くなってしまって、HB だと何が書いてあるか、わからなくなってしまったからだそうです。なので小学校の先生も、力が弱くても文字などがクッキリ書ける、やわらかい B や 2B の鉛筆を勧める（要求する）のだそうです。

そしてその話は、「筆圧の弱さ」で終わりませんでした。ある専門家（医学関係）の話では、「筆圧の弱さ」は単に指の力が弱いということではなく、身体全体の力の使い方のバランスの悪さが問題なのだということです。・・・だから例えば、かかとを床につけたままで座れない（しゃがめない）子どもが増えているそうです。

そしてちょっと怖い話ですが、その専門家は警告します・・・このままだと将来、親が子どもを介護する事態にもなりかねない、と。その話、少し大げさに言っている感じがなくてもありませんでしたが、でも、それくらい、子どもの身体の成長が心配だということなのでしょう。子どもの発達では「粗大運動（何かに登ったり、グルグル転がったり）が土台となり、微細運動（指先を使った作業など）が育つ」と言われています。これ（親が子どもを介護する事態にもなりかねないという話）が話半分としても、今以上に、我が子の身体のことを考え直してみることに、意味があるのかもしれない。

## 最後に、ちょっとお知らせ・・・

7月2日（木）13時30分（開場13：00）から 佐野市文化会館小ホールにて、

市民フォーラム「新しい保育制度とは、何！？ そこで変わるもの・変わらないものは？」が開催されます。

これは、佐野市「子ども・子育て会議」（園長・中山もその委員）が主催。かなり豪華な講師をおよびすることができました。

秋田 喜代美 氏

東京大学大学院教育学  
研究科教授。  
日本保育学会会長。  
内閣府子ども・子育て  
会議委員。



著書は、「保育のみらい」「保育のおもむき」「学  
びの心理学 授業をデザインする」「対話が生ま  
れる教室」「よくわかる幼保連携型認定こども園  
教育・保育要領徹底ガイド」など多数。

大豆生田啓友 氏

玉川大学教育学部教授。  
栃木県生まれ。  
青山学院幼稚園教諭を  
経て現職。NHK E テレ  
すくすく子育てに出演。



墨田区子ども・子育て会議委員。著書は、「マメ先  
生が伝える幸せ子育てのコツ」「『子ども主体の協  
同的な学び』が生まれる保育」「子どもがあそびた  
くなる草花のある園庭と季節の自然あそび」など。

もうちょっとしたら募集の案内が出ますが、本園にも15人ほどの枠があります。文化会館小ホールは300人の収容となっていますが、申し込まれた方の席は確保されます。

秋田先生からは「『子ども・子育て支援新制度』って ということ」というお話、その後は大豆生田先生を交えたシンポジウム「大切にしたい保育の本質とは！ ～これから大切になること、これからも大切なこと～」。お楽しみに！！